

■サンタアニタトロフィー (SIII) アラカルト (過去 38 回の分析)

※第 1 回 (昭和 55 年) から第 16 回 (平成 7 年) までは「関東盃競走」の名称で実施

※第 23 回 (平成 15 年) から第 24 回 (平成 16 年) までは大井ダ 1,590m で実施

※第 32 回 (平成 23 年) は大井ダ 1,800m で実施

※第 32 回 (平成 23 年) は国際招待競走、別定競走として実施

※記録は平成 29 年 7 月 11 日時点

■単勝 1 番人気馬より単勝 2 番人気馬の方が 3 着内率は高い

単勝 1 番人気馬は 11 勝、2 着 6 回、3 着 1 回で、3 着内率が 47.4%、単勝 2 番人気馬は 6 勝、2 着 7 回、3 着 6 回で、3 着内率が 50.0%、単勝 3 番人気馬は 5 勝、2 着 3 回、3 着 5 回で、3 着内率が 34.2%となっている。単勝 1 番人気馬は連対率こそ 44.7%に達しているものの、3 着内率は単勝 2 番人気馬よりも低い。

■人気馬が上位を占めた例は少ない

過去 38 回のうち 22 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めた。ただし、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 6 回しかなく、単勝 3 番人気以内の馬が 1~3 着を占めた例はまだない。

■優勝馬の大半は 4~5 歳馬

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 1 勝、4 歳が 13 勝、5 歳が 12 勝、6 歳が 8 勝、7 歳が 3 勝、9 歳が 1 勝 (8 歳ならびに 10 歳以上は未勝利) となっている。なお、3 歳の馬は第 3 回 (昭和 57 年) のレイクルイーズを最後に優勝例がない。

■“トップハンデ”の馬は8勝

過去38回のうち8回は、もっとも負担重量の重い馬が優勝を果たしている。一方、もっとも負担重量の軽い馬が優勝を果たしたのは2回だけである。なお、優勝馬の負担重量は第6回（昭和60年）のテツノカチドキに課されていた59.5kgが最高、第2回（昭和56年）のダイロクホームイと第3回（昭和57年）のレイクルーズに課されていた50kgが最低だ。

■牝馬は2勝、外国産馬は優勝例なし

牝馬は第3回（昭和57年）のレイクルーズ、第9回（昭和63年）のイーグルシャトーと、これまでに2頭が優勝を果たしている。なお、外国産馬は第25回（平成16年）でナイキゲルマンが、第28回（平成19年）でシーチャリオットが2着となったものの、まだ優勝例がない。

■騎手別の歴代最多勝記録は「7」

騎手別の勝利数を見ると、7勝の的場文男騎手が単独トップ。第37回（平成28年）、第38回（平成29年）と、ここ2年連続で優勝を果たし、石崎隆之騎手、張田京騎手（各4勝）らとの差を広げている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の大山末治調教師、月岡健二調教師がトップタイである。

■外寄りの6枠や7枠がやや優勢

枠番別勝利数を見ると、6枠（8勝）が単独トップ。7枠（6勝）が単独2位、1枠、5枠、8枠（各5勝）が3位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、6番（5勝）が単独トップ。1番と8番（各4勝）が2位タイである。なお、未勝利の枠番ならびに馬番はない。

<伊吹雅也>